

一般財団法人 エンジニアリング協会

石油開発環境安全センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-18-19

(虎ノ門マリビル 10 階)

TEL(03)5405-7205/FAX(03)5405-8201

URL: <http://www.ena.or.jp/SEC/>

第 81 号 / 2012. 4

- 委員会・部会報告
 - ☆第 2 回企画委員会、第 3 回企画技術部会
- 平成 24 年度 SEC の体制について
- 事務局異動
- 欧米出張報告
- 会員の皆様へのお知らせ
 - ☆第 345 回サロント・エの開催
- 会員の広場
 - ・マシントレイト中間評価検討会開催報告
- トピックス欄
 - ・新事務所披露パーティ
 - ・平成 23 年度第 6 回 (定時) 理事会報告
 - ・拙句雑感

■委員会・部会 報告■

☆ 平成 23 年度第 2 回企画委員会

日時：3 月 8 日 (木) 9：30～12：00

議事：1) 平成 23 年度企画技術部会活動状況について (現状報告)

① 企画技術部会の 3 つの分科会活動状況について

② JKA 補助金業務提案状況について

2) 平成 23 年度実績見込み(案)と平成 24 年度計画(案)について (現状報告)

3) 平成 24 年度事業計画(案)と予算(案)について (状況報告)

高橋委員長の挨拶に続き、経済産業省鉱山保安課沼倉班長からご来賓の挨拶を頂いた。

議題 1) ～ 2) について事務局より報告がなされた。議題 3) について事務局より内容説明が行われ、事業計画(案)については承認された。しかしながら、予算(案)については、協会全体の予算提示ができなかったため、数字が決定次第、各委員にメールを送り承認を得る(書面審議)こととした。書面審議の結果、上記 3) は承認されたので、理事会に付議されることとなった。

☆ 平成 23 年度第 3 回企画技術部会

日時：2 月 15 日 (水) 9：30～12：00

議事①平成 22 年度 SEC 課題検討会と平成 23 年度の技術部会の活動状況概要 (報告)

②分科会活動状況について (報告・討議)

・第 I 分科会 (HSE 関連分科会)

・第 II 分科会 (アクシデント・マネジメント分科会)

・第 III 分科会 (エネルギー基本計画の見直し分科会)

③JKA 補助金申請と準備状況について (進行状況報告)

④石油センターの今後のあり方議論等の進捗状況 (討議)

⑤平成 24 年度受託事業等計画(案)及び平成 23 年度石油センター事業進捗状況と決算見込み(案)

中村所長の挨拶、堀江部会長の挨拶に続き、経済産業省鉱山保安課沼倉班長からご来賓の

ご挨拶を頂いた。議題①～③について事務局より報告がなされ、④については討議された。議題⑤について事務局より内容説明が行われ、審議の結果、承認された。本部会で承認された上記⑤は企画委員会に付議されることとなった。

☆分科会の活動状況報告

(1) 第Ⅰ～Ⅲ分科会の活動状況報告

- ①第Ⅰ・第Ⅱ分科会はメンバーの知識の共有を目指した勉強会・意見交換を行ってきた。
- ②Ⅲ分科会で2/17のMETI基本問題委員会にパブコメを提出した。

(2) JKA 補助金関連

- 3月までの準備WG等の活動は、11月から4回実施した。
- ・今回はSECとして初めての補助金申請であったので、事務局が中心となり会員との親和性が高いと判断した地熱ならびにCCSの2つのテーマに絞った。
- 本来は、会員各社がSECの場で調査・研究を共同で実施したいテーマを効率良く・経済的に行うものである。

■平成24年度SECの体制について ■

4月1日付けでSECメンバーの異動がありました。
 新たな体制の下でエンジニアリング産業の発展のために努力してまいりますので、皆様のご指導ご協力を宜しくお願い申し上げます。

1. 新任

総務企画部長	山田周治	新日鉄エンジニアリング(株)から
研究主幹	百田博宣	清水建設(株)から (5月1日付け)
技術調査部 研究主幹	青柳敏行	石油資源開発(株)から

2. 昇任

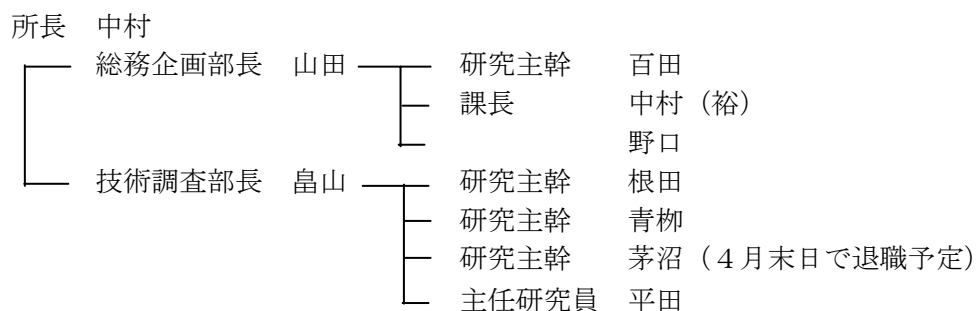
技術調査部長	畠山 孝
主任研究員	平田敦洋

3. 退任

総務企画部長	長谷川久	新日鉄エンジニアリング(株)へ復職
技術調査部 研究主幹	和田泰剛	石油資源開発(株)へ復職

《体制図》

石油開発環境安全センター



■事務局異動■

事務所内異動の挨拶

①宮島信一 2月1日付 石油開発環境安全センター総務企画部長代理より総務部部長代理へ転任

本年の新事務所への移転に合わせ、2月1日付けで総務部(経理担当)へ異動しました宮島です。SECでは総務企画部の所属として、平成22年7月から本年の1月末までの在席1年7ヶ月という短い期間で、お役に立つようなことは何らできませんでした。この間、GEC管理部との兼務ではありましたが、主に事務管理的な業務の視点から各種会議や部会等の場への参加の機会を得て、自分自身にはすべてが面白くかつ新しいことで大変勉強になりました。特に長期に亘り取り組んでいるMH開発業務は、昨今のエネルギー事情からその実証・実用化へ向け、大変夢のある業務と思っています。SECが会員企業の皆様とともに永く繁栄されんことを願いつつ、以後は総務部門から間接的に支援・応援をさせていただきます。大変お世話になりました。

②松田任子 2月1日付 石油開発環境安全センター総務企画課長代理より総務部課長代理へ転任

この度の人事異動により、石油開発環境安全センターから、当協会総務部に異動となりました。ENAA採用時よりSECに配属され、5・10・15・20周年と、SECの成長に一喜一憂して参りました。その間、順風満帆に歩めたことは、周囲の方々に支えていただいたお陰と感謝申し上げます。今後は、皆様方からの教訓を大切に、心新たに職務に専心努力して参りますので変らぬご支援ご交誼を賜りますようお願い申し上げます。

③中村裕己 2月1日付 地下開発利用研究センター課長と石油開発環境安全センター課長兼務着任

この度、地下開発利用研究センター管理部、石油開発環境安全センター総務企画部の業務を兼務することになりました。これからは、皆様と石油センターのパイプ役となれるよう、鋭意努力してまいります。至らぬところも多々ございますが、皆様と一緒に楽しく仕事をさせていただきたいと思っておりますので、ご指導下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

退任の挨拶

①長谷川 久 3月31日付 石油開発環境安全センター総合企画部長 退任

(復帰元：新日鉄エンジニアリング(株))

2年前に着任以来、一般財団への移行、受託業務の縮減などの社会情勢の激変の中、賛助会員・センターの皆さんの協力を得て、企画委員会・企画技術部会・3分科会の体制を立上げ、SEC・20周年記念事業も行うことが出来ました。これで、何とか未来を睨んだ事業展開の入口に立つことが出来たと思っています。

これからも、SECという独特な異業種集団が、如何に”社会に常に求められる存在であり続けるか”を、追求し行動して行って欲しいと思っています。

②和田泰剛 3月31日付 石油開発環境安全センター 技術調査部 研究主幹 退任

(復帰元：石油資源開発(株))

SECには4年4ヶ月間在籍し、CCS、メタハイに関する研究開発・調査等を担当させて頂きました。その内の幾つかで、私なりに納得できる成果を収めることができたのは、偏にSEC内外の関係者のお陰と感謝しています。昨年、荒天下の太平洋で実施したメタン漏洩検知センサーの実海域試験は、船酔いに苦しんだもの的一生忘れ得ぬ楽しい思い出です。

今後はSECのOBとして、引続き皆様と接触できることを楽しみにしています。

新任の挨拶

①山田周治 4月1日付 総務企画部長 着任 (新日鉄エンジニアリング(株)より出向)

新日鉄エンジニアリングより出向してまいりました山田周治と申します。 これまでは、主に液化

石油ガス関連プロジェクトのプロジェクトマネジャーを担当してまいりました。今後は、SECの総務企画部長として早く業務に慣れ、会員各位のご意見を賜りながらSECの活性化に寄与したいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

②青柳 敏行 4月1日付 技術調査部 研究主幹 着任（石油資源開発㈱より出向）

JAPEX より ENAA・SEC へ出向した青柳と申します。専門は作井（Drilling）ですが、近年は、改正鉱山保安法への石油・天然ガス業界対応を担当すると共に、環境マネジメントシステム ISO14001 の外部認証取得、労働安全衛生マネジメントシステム OHSAS18001 に基づくリスクアセスメント対策、並びに国内外オペレーションの HSE 統合へ向けた基盤作り等に取り組んで参りました。皆様からのご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

■欧米出張報告■

技術調査部長 畠山 孝

1. はじめに

本業務は、独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)が実施するメタンハイドレート開発促進事業に関する委託業務のうち、平成 23 年度「メタンハイドレート開発に係る海洋生態系への影響評価のための基礎研究」の一部として実施し、本出張では、石油開発関連会社へのインタビューにより、石油天然ガス開発に伴う環境影響評価手法について調査しました。

2. スケジュール、訪問先等

本出張では、2月26日から3月8日までの日程で、フランス・パリの TOTAL 本社、ノルウェー・トロンハイムの STATOIL 技術研究所、米国・ヒューストンの CHEVRON 事務所及び Ecology & Environment（環境コンサルタント）事務所を訪問しました。

3. 概要

3-1. TOTAL

同社は世界130以上の国々において90,000人以上の従業員を抱えて事業を展開しており、環境モニタリングはコンプライアンスモニタリング（日常排出される特定のインディケータの日々の測定）、および調査サイト環境の定期的な測定の2種によって実施されています。また環境影響評価手法は、“ISO 14001”、環境影響評価基準は、“世界銀行ガイドライン”にそれぞれ準拠しています。

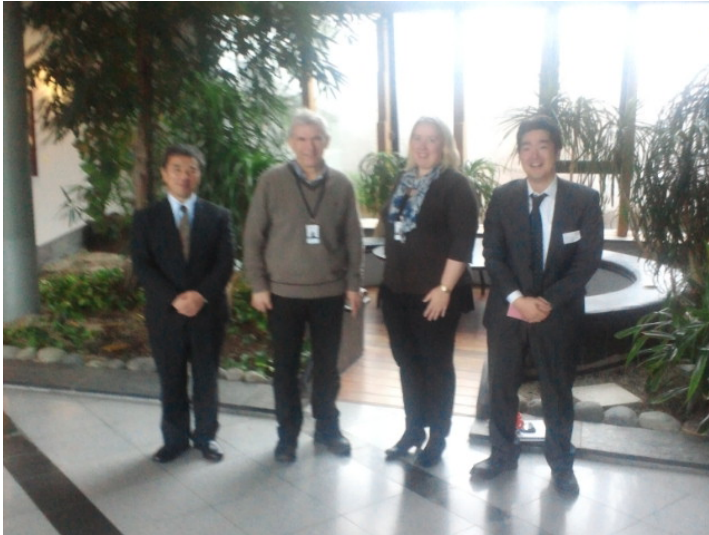


TOTAL本社の全景

3-2. STATOIL

世界 30 以上の国々において、20,000 人以上の従業員を抱える石油・ガス製造会社であり、ノルウェー国内に 4 か所の研究センターを持ち、それぞれが国の研究機関の近くに置かれています。

同社は、”Zero Discharge”の実践的なアプローチとして、環境影響因子を特定・数値化して潜在的风险の定量化を行ったり、あらゆる情報源からの情報を収集・分析し、総合的な判断を下す統合的環境モニタリングシステムを計画しています。



(中央右)
Mona Låte
Leader Environmental Technology
(中央左)
Knut-Olav Fjell M.Sc
Principal Researcher

STATOIL 技術研究所にて

3-3. CHEVRON

アメリカ合衆国の主要総合エネルギー会社であり、多様な技術を持つおよそ 58,000 人の従業員と 4,000 のサービスステーション従業員が従事しています。時間的な制約があり、担当者に簡単なインタビューを行いました。環境影響評価手法については聞くことが出来ませんでした。

3-4. Ecology & Environment(E&E)

環境管理業務を取り扱い 1,000 人以上の従業員を抱えるアメリカ合衆国のコンサルタント会社であり、事務所は合衆国内の 42 都市、海外の 17 か所にあります。同社にはメキシコ湾原油流出事故における環境に関する質問を行いました。事故による環境影響については、現段階では限られた調査からの証拠しかなく、詳細かつ広域的な影響に関する情報を考慮した判断は今後の調査結果を待たなければならないとのことでした。

4. 所感

TOTAL 社では HSE マネジメントシステムの専門家からその概要をわかり易く聞くことができ、特にリスクアセスメントに関しては具体的な評価方法を知ることができました。また STATOIL 社では、環境影響評価は 1 社で実施するよりもコンソーシアムを構築して複数の企業が情報交換を行いながら進めることが有益であることを知りました。そして E&E 社で Macondo 事故後のメキシコ湾における環境対策についてその動向を知ることができました。残念ながら CHEVRON 社では有益な情報が得られませんでした。石油メジャーの聞き取り調査では、情報の “Give and Take” が必要であることを思い知らされました。

■会員の皆様へのお知らせ■

☆第 3 4 5 回サロン・ド・エナ (SEC 担当) 開催について

1. 開催日：平成 24 年 6 月 19 日 (火) 15:30～
2. 講師：松永 俊夫 氏
3. 所属及び役職：国際石油開発帝石 (株)
イクシス事業本部・技術ユニット・シニアコーディネーター
4. テーマ：イクシス・プロジェクトの概要 (仮題)

5. 本プロジェクトについて

(協会誌 Engineering 2011 Nov, NO.129 「SEC 設立 20 周年記念号」 会員の広場 より抜粋)

西オーストラリア州キンバリー地区の沖合約 200km にある WA-285-P 鉱区において、1998 年 8 月に採掘権を取得、2000 年 3 月より、試掘井、評価井等、合計 8 坑を掘削して、商業開発に十分なガス・コンデンセートの発見に至りました。2012 年 1 月に最終投資について決定され、2016 年には生産開始を予定しております。

このプロジェクトでは、オーストラリア政府および北部準州政府が策定したガイドラインに沿って環境への影響を数年にわたり調査・報告し、2011 年 6 月にそれぞれの州政府よりプロジェクト実施に対する承認を得ています。また、プロジェクトの推進にあたって、地域とのコミュニケーションや先住民の方々との相互理解の構築は大変重要であり、その努力を重ねております。

■会員の広場■

☆ 第 2 回メタンハイドレート開発促進事業（フェーズ 2 中間時）中間評価検討会開催

平成 21 年度から始ったメタンハイドレート開発計画のフェーズ 2 も 3 年が経過したため、経済産業省によるプロジェクトの中間評価を受けることになり、平成 24 年 2 月 24 日に上記検討会が経済産業省別館で開催されました。本評価検討会で了承された評価報告書（案）は、産業構造審議会産業技術分科会評価小委員会で審議され、了承を得た後、経済産業省ホームページで公開されます。

■トピックス欄■

☆ ENAA 「新事務所移転に伴う披露パーティ」について

新事務所移転に伴う披露パーティが、2月24日（金）16：30より新事務所会議室において開催されました。賛助会員企業をはじめ官庁、大学、関連団体関係者等250名を超えるご出席を頂きました。

☆平成23年度第6回（定時）理事会（3月23日（金）16：00～16：45）

第1号議案 平成24年度事業計画（案）および収支予算（案）について

第2号議案 諸規程の改定等について

いずれも原案通り承認され、その他報告事項として、「最近のENAAの活動状況」についての説明がなされた。なお、本理事会において承認された平成24年度事業計画および収支予算については、ホームページに掲載。▼詳細はこちら <http://www.ena.or.jp/> 協会の概要欄

拙句雑感：中公新書「ゾウの時間・ネズミの時間」東京工業大学理学部生物学教室教授本川達雄著によると“ほ乳類の心拍数は一生涯で20億回程度といわれており、「20億÷（一分あたりの心拍数×1440）÷365」つまり「約3800÷一分あたりの心拍数」で自然死の寿命が求められることになる。
○ゾウも猫もネズミも心臓はドッキンドッキンと20億回打って止まる。
○ウグイスもカラスもダチョウも息をスウハアと5億回すって終わる。
呼吸と心拍と脳波は密接に関係している。この数式に科学的根拠があるとは言えないし、少なくともヒトの場合はあてはまらないようである。☆ほ乳類の一生の間の心拍数は20億と決まっている。
この本の冒頭に目にした文章です。一読して動物が変われば時間も変わるということを知った時は、何か賢くなった気がした。このことによりヒトというものを相対化して眺める効果がありいろいろ考えさせてくれた本でした。一読をお勧めします。
(SECニュース編集者)